

障害者のICTを活用した社会参加推進セミナー
「ICT利用を地域で支える」

平成20年3月12日

東京都障害者ITサポートセンター
社会福祉士 堀込真理子



社会福祉法人東京ココニー 職能開発室

社会参加・就労を目標に、4つの柱

■ ICTを利用した

事業 内容

1) 在宅で学べるIT教育

2) 在宅就労(SOHO)支援

3) 在宅勤務を対象とした職業紹介

4) ICTの導入・活用の支援

東京都障害者ITサポートセンターの運営
2004. 11～スタート 年平均1500人来場



東京都障害者ITサポートセンター

- 東京都の地域生活支援事業(国の補助)
- 福祉保健局より、社福)東京コロニーが事業受託

主な機能

- 利用相談、 サポータ派遣、 IT講習

少数でも常駐職員がいて、場所がある



様々な分野の方が自然に集まり、
この分野の流れや問題点が見えてくる場所に

都内の障害のある方

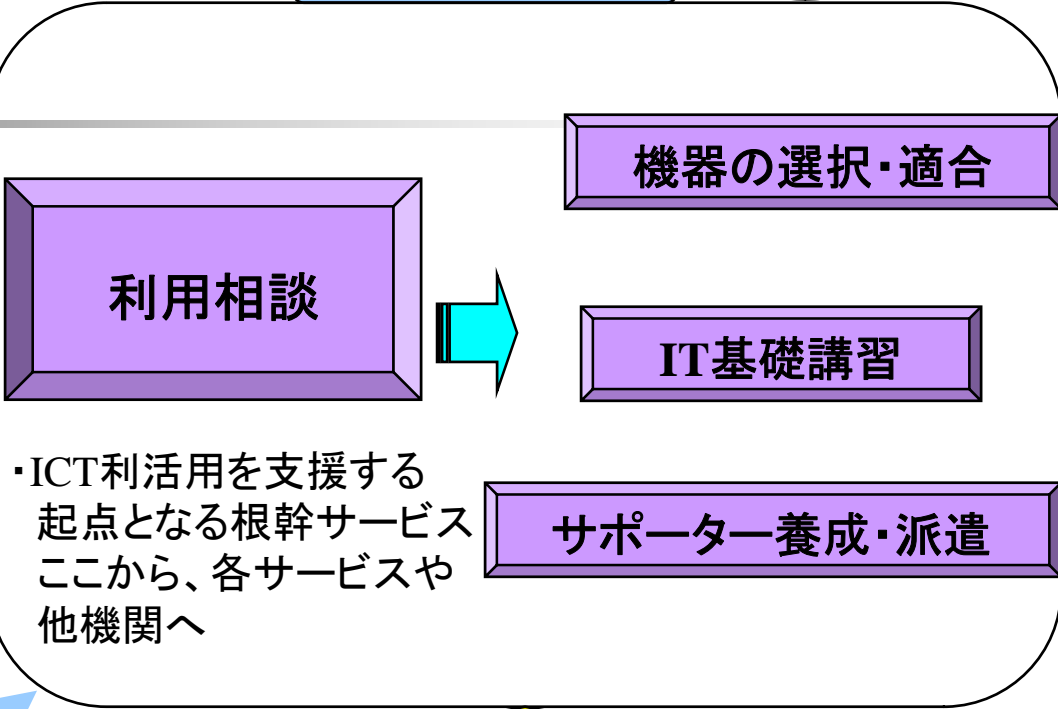
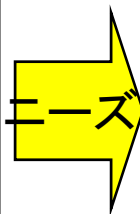
東京都

提供サービス



PC,インターネット,携帯等の利用において、

- 自分に(障害に)適した機器を知りたい。
 - 基礎から使い方を知りたい。
 - 便利な利用方法がわからない。
 - 設定が上手くいかない。
 - 自宅のパソコンを活用したい。
 - ITを使った社会参加活動がしたい。
(web参照、メール交流、就職等)
 - 病気や障害により会話が困難になった
家族とコミュニケーションしたい
- などなど・・・



国

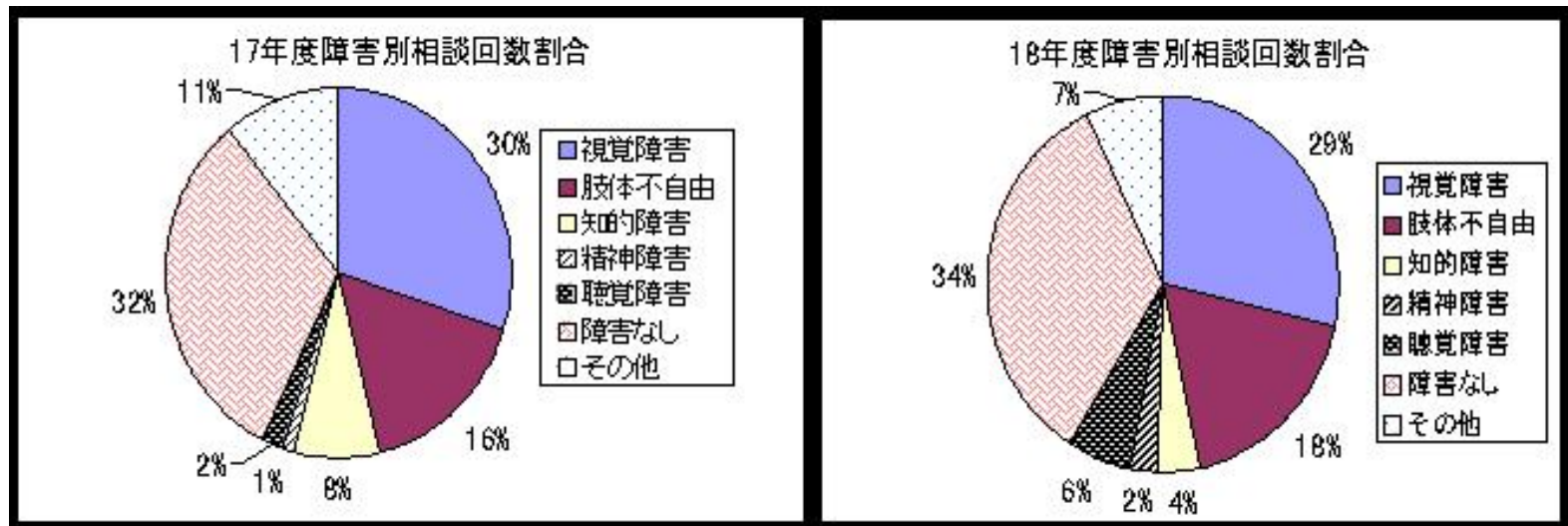
1/2助成

- (協力・連携)
- 医療機関
 - 就労支援機関
 - 図書館
 - メーカー・販売店
 - 障害当事者団体
 - パソボラ団体
 - 他県のサポートセンター
 - etc・・・

1. 主なサービスと利用状況

○利用相談事業

- 平成17年度 1014件 18年度 960件
- 視覚障害の方が最多、その他として失語症、高次脳機能障害、発達障害等増加



多種多様な機関・団体につないでおり、
真の問題点は実は生活面にあたりもする

○個別の機器選択・適合



- 相談者個別の利用しにくさを理解、適応したソフト及びハードを選択
- その方にとって一番よい設定・作業環境がどこか、利用者とともに操作しながら探る
- 継続的な支援の場合、個別にケース記録をつけ、職員のみで共有

操作時の姿勢など体に関わることは、専門家へ。
来場時、担当OTや、常に関わっているヘルパー、ケアマネージャーなどの同行を。

○IT講習事業



■ 定常コースと企画コースの2種類

- 定常コース) 基礎 I、II コースが年間2回
- 文字入力～WEB参照、メール作成までを約束
- 年間約 100人利用

- 企画コース) 不定期実施。多様な内容。年10回強
- 対象者は当事者の他、家族、ヘルパー、看護師、ボランティアなど支援者向けのもの多数 年間90人利用

- 新企画サポーターズ・カフェの実施
- 基本操作の次の利用技術。日中の楽しみを増やす、就労に役立てる、など活用法の獲得

○サポーター養成・派遣事業

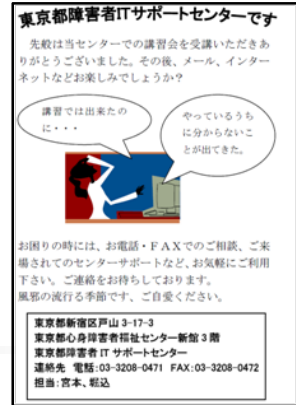
- ICT機器の技術支援を行うボランティア養成
- 年2回養成講座実施 センターまたは利用者宅でサポートを行うよう派遣

「障害」を先に見るのでなく、
その人の「困難なこと」を中心に支援を展開できる人

- 現在(2008年3月現在)55人登録
- 派遣(センター及び訪問)数 年間約100件
- <多い訪問例>

ALS、脳血管障害の方のコミュニケーション支援
視覚障害の方の作業環境の確認 など

○ これからのセンター



- 来場者が何度でも安心して来れる、来たくなる場所へ
- 当事者団体や施設等、必要な所へサービス派遣
- 作業環境の重視 → PC以外の課題の整理
- 専門的な支援＝理解しにくい障害、病気等への専門的支援あるいはそこへの適確なナビ
- 利用増大のために
 - 成果の定量的、定性的なアウトプット
 - 障害のある方のみでなく、一部誰でも参加できるサービス作りへ
 - 企業のより積極的なセンター活用

人、もの、組織の情報交差、「足がかり」となる場所へ